

夢の叶え方。

さっきうちに空飛ぶソリでやってきた、赤い服と赤い帽子に白いひげのおじいさんによると、どうやら、僕にはあと1時間しか寿命がないらしい。今日はプレゼントがもらえる日だって聞いていたのだけど、どうやらこれが人生最後のプレゼントみたいだ。おじいさんが教えてくれなかったら、この話を君にすることもなかったと思う。だから、大切なことを教えてくれておじいさんには感謝している。残り1時間、何をしようかちょっと考えたけれど、この1時間を使って、君にどうしても伝えておかななくてはいけないことを、話したいと思う。たった1時間しかないけれど、僕は「夢の叶え方」について話したいと思うんだ。大丈夫、1時間もあれば、夢の叶え方なんて話し終わってしまうから。

ところで、君には将来の夢とかがあるのかな？パイロットになりたいかもしれないし、宇宙飛行士になりたいかもしれない。野球選手になりたいかもしれないし、社長さんになりたいかもしれないね。なんでもいい、なりたいものになろう。飛行機が安全に飛べば、何百万人という人が助かる。宇宙からの映像に人々は大喜びする。特大のホームランを見て人は夢を持つ。大きい会社の社長さんになってみんなの生活がよりよくなるものをたくさん売るのもカッコいいね。そうやっていくと、みんなが笑顔になって、隣の人にやさしくなって、その輪が広がって行って、世界は平和で素晴らしいものになるんだ。だから、君が本当になりたい大人になることが、まずは一番大事なんだよ。これを忘れないでほしい。

なのに、今ほとんどの大人たちは、残念ながらそうやって生きていない。やりたいことをやれず、毎日が辛くて、君くらいの頃持っていたパイロットになりたかった夢とか、野球選手になりたかった夢とか、お花屋さんになりたかった夢とか、ケーキ屋さんになりたかった夢とか、どこかに忘れてきてしまって、何のために生きているのか、わからなくなってしまうんだ。

だから、朝や夜、電車に乗ってごらん。笑顔の人は、ほとんどいないよね。みんな目をつむって、怒ったような顔をして、疲れ切った表情で、うつむいている。おじいちゃんやおばあちゃんがきても席を譲るのは外国人の人で、日本人の他の人は気づかないふり。君も、道ですれ違うだけの知らない人とはきっとあいさつなんてしないよね。もしかしたら、他の人のことなんて知らない、関係ないよ、と思っているのかもしれないね。

ちょっと想像してみてほしいんだけど、もし自分が、ほしいものは何も買ってもらえなくて、誕生日やクリスマスにも何もお祝いがなくて、学校では嫌な勉強ばかりさせられて、家に帰っても塾や勉強ばかり。見たいテレビも、したいゲームも、読みたい本も一切ダメ、ご飯は毎日同じようなインスタント食品ばかりで、学校の帰りにこっそりポテトチップスやチョコレートを買って食べて帰ってくる、みたいな生活だったら、お友達に優しくできるかな？せっかくもらった大好きなお菓子を、お友達に分けてあげられるかな？僕だったら、思わず独り占めしちゃうかもしれないな。

僕たちは神様でも仏様でもないから、やっぱり自分たちが楽しくないと、自分たちが笑って生きていないと、他の人には優しくできないんだ。だからまずは自分が楽しいと思える生き方をしてほしいし、毎日を笑顔で生きてほしいと思う。そうすれば、きっと周りのお友達も、お父さんもお母さんもおじいちゃんもおばあちゃんも、笑顔になっていくから。

これから君は何十年も生きていくことになると思うけど、周りのみんなが怒ったような顔をしていて、毎日が辛そうで、つまらなそうで、誰かの悪口ばかり言っているような世界で、そんな何十年も、長い間生きていきたいくはないよね。でも、世界を楽しくできるのは、君しかいないんだよ。

そう言えば、どうして君のお父さんは毎日朝早くから夜遅くまで一生懸命働いているのかな？もちろんお金を稼ぐためだね。お金を稼がないと、君の家族が飢え死にしちゃうから。もしお父さんが働かなくなったら、君は真冬なのに暖房をつけることができず、真夏でもクーラーをつけることができず、お風呂は一年中冷たい水しか出てこなくて、ある時水すら出てこなくなっちゃう。

水や電気やガスは、みんな当たり前に使っていると思うけど、みんなお父さんが働いたお金で、買っているものなんだ。だから買えなくなったら、もう使わせてもらえない。

食べ物はレストランの裏のゴミ捨て場から拾ってきて食べなければいけない。拾ってきたものだからカビが生えていたり腐っていたりするかもしれないけど、食べなきゃ死んじゃうからお腹を壊しながら食べるしかない。そういう生活を君にさせたくないから、お父さんは一生懸命毎日働いているんだ。

でも、それって、お父さんは幸せなのかな？確かに僕らが生きていくにはお金は絶対に必要だけど、お金を稼ぐ“ために”生きているって、幸せなことなのかな？

もしチャンスがあれば、今日の夕ご飯の時、ケーキの残りを食べながらでも、お父さんに聞いてみてほしい。お父さんは、本当に今の仕事をしたかったの？って。クリスマスだから特別に教えてよと言えればきっと話してくれると思う。お父さんが子供の頃、本当は何になりたかったの？って。そういうことを聞いたら、もしかしたら、いつも疲れているお父さんも、少し元気になるかもしれないよ。お父さんを元気にするためにも、聞いてみよう。

お父さんが野球選手になりたかったのか、小説家になりたかったのか、学校の先生になりたかったのか、ロケットの運転手になりたかったのか、それとも仮面ライダーやウルトラマンになりたかったのか、それは僕には分からないけれど、きっと「今みたいにサラリーマンになって毎日朝から晩まで上司から言われた仕事だけをやる人になりたかった」とは言わなかったと思うんだ。「家族のために毎日お金を必死に稼ぐ人になりたかった」とは言わなかったよね。きっと、やりたいことやなりたい職業があったはず。子供のころは、みんな夢を持っているからね。

でも、残念ながら君のお父さんは夢をかなえられなかった。お金を稼ぐための人生なんてつまらないと思いつつながら、お金を稼ぐために生きるしかなくなってしまった。それはどうしてだと思おう？それはね、お父さんが怠け者で、弱くて、何をするにもダメな人だったからじゃないよ。ただ「夢の叶え方がわからなかった」からなんだ。

夢は「自分で頑張って叶えるもの」なんだよ。ぼーっと待っていても、学校の宿題を毎日ちゃんとやって、給食を残さず食べて、テストでいい点とっても、絶対に叶わない。なのに、お父さんは「どう頑張ればいいのか」ってことを、学校からも親からも教わらずに大きくなっちゃったから、夢の叶え方がわからなかっただけなんだ。

だから僕は、人生の最後に、君に夢の叶え方を教えたいと思う。生きていくためにはお金は稼げないといけない、でも、お金を稼ぐために生きていくのはつまらない。楽しく生きて、結果としてお金も稼げたら、それが一番いいよね？

そのためには、君の夢を叶えちゃう以外に方法はないんだ。それにきっと、お父さんも君には夢を諦めてほしくないと思っているはずだから。今はまだ少し難しく感じる場所もあるかもしれないけれど、きっといつか分かる日が来るから、諦めないで聞いてもらえるとうれしいな。

実は、夢はたったみつつのことをきちんとやっていくだけで叶っちゃうんだ。海外で活躍するプロの野球選手にも、売れっ子の小説家にも、一日中飛行機を運転するパイロットにも、世界で一番好きな人のお嫁さんにも、なれちゃう。しかも、ひとつひとつは全然難しくなく、毎日5時間も6時間も机に向かって算数の勉強をしなればいけないということもない。むしろ、君ならとても楽しくできることだと思うよ。

「たったみつつのことをやるだけでいいなんて、夢を叶えるなんて簡単なんだ」って思ったかな？そう、実は知っている人にとっては、すごく簡単なんだ。そのかわり、知らないと絶対に叶えられない。いまからひとつずつ説明していくね。

まず一番大切なことからお話ししようかな。これは一番大切なのに、大人になると一番先にできなくなってしまうことだから、よく注意して聞いてほしいと思う。一番大切なことを一番できなくなっているのだから、そりゃあほとんどの大人たちは夢を叶えられないはずだよ。君は絶対そんなことにはなっていないよ。

夢をかなえるために一番大切なこと、それは「嘘をつかないで生きる」ってこと。それは、例えばつまみ食いを本当はしたのに、お母さんに「僕知らないよ、弟がやったんじゃないの」って言っちゃいけないとか、本当は学校で先生から怒られたのにお母さんには「クラスで一番ほめられたよ」って言っちゃいけないとか、そういうことじゃないんだ。そうじゃなくて、自分がやりたいことをやりたいとはっきり言うこと、好きなものを好きとはっきり言うこと、嫌いなものやりたくないこととはっきり言うこと、そういうことなんだ。

君は算数が好きかな？嫌いかな？好きなら「僕は算数が好きです」とはっきり言える人になろう。たとえすごく仲のいい友達が「算数が好きな奴って気持ち悪いよな」って言ってきたとしても、「僕は算数好きだけど」ときちんと言えるような人になろう。嫌いなら嫌いとはっきり言えるようになろう。家族と食事

に行ったら、一番食べたいものを注文できる人になろう。お父さんやお母さんの顔色を見て、「頼んでよさそうなもの」を頼むのは今日から禁止にしよう。「またお肉ばかり食べて、野菜炒めにしなさい！」と言われても、ハンバーグが食べたければ「僕はハンバーグが食べたい」とはっきり言おう。でも、添えてある野菜やセットのサラダを残してはいけないよ。野菜だって、好きでバラバラに切り刻まれたり、熱い鉄板にのせられたりしているわけではないのだから。

こうやって自分に正直に生きていくと、みつつのいいことがあるんだ。ひとつは、好きなことができ楽しく生きていけるということ。これは簡単にわかるよね。もうひとつは、後悔しなくなるということ。野球の試合に負けたり、テストの点数が悪かったりした時、悔しい気持ちになったことはないかな？もっと勉強しておけばよかった、とかもっとバッティングの練習しておけばあそこで空振りしなかったのに、とか思ったことはないかな？それを後悔って言うんだけど、後悔って、実は「他の人からやらされているから」起こるものなんだって、知ってたかな？

テスト勉強って、したくてしたわけじゃないよね。親とか、学校の先生とかが、もし点数が悪いと怒るから、本当はテレビを見たりゲームをしたりしたかったけど、仕方なくやったことじゃないかな。野球も、好きでやっているのかもしれないけど、きつい練習はコーチや監督が「やらなきゃグラウンド10周だぞ！」って言わなきゃ、自分一人じゃなかなかできないよね。

そうやって「誰かからやらされたもの」に限って、失敗するとあとから後悔が生まれるんだ。そして、結局次もまた同じことを繰り返す。逆に、自分で心からやりたいと思ったことについては、たとえ失敗しても、後悔って生まれないんだよ。むしろそういう時は「もう一回挑戦するぞ」って前向きに思うんだ。試合に負けた直後から、公園やグラウンドに行っ、自主練をはじめちゃう。それが「本当にやりたいことをやった」人の姿なんだよ。

最後、みつつ目のいいことは、これから世界がどうなっていくのかが見えてきちゃう、ということ。例えば僕は中学生の頃、英語の勉強をするのが大好きで、教科書もノートも全部暗記してて、まるで先生のように授業をすることができたんだ。そうするともちろんテストの点数は100点とか98点とかばかりになるんだけど、同じようにほとんどすべてを暗記していた友達は、85点とかしか取れなかったんだよ。これはなんでだと思う？

実は、彼は、親に言われて、怒られて、嫌々勉強してたんだ。英語なんか好きじゃないのに、本当は理科が好きだったのに、親が英語をとにかく勉強させていた。僕は単に英語の勉強が好きで、自分から勉強してたんだ。その違いが、僕らにある決定的な違いをもたらせた。

それはね、僕は勉強していくうちに、「テストでどんな問題が出るかわかるようになった」んだよ。毎日毎日好きで英語の教科書を読んで、ノートを復習していたら、先生がどこを問題に出すかが、不思議なほどわかるようになってきたんだ。だから僕は悪くても98点が取れるようになった。でも友達は、ただ嫌々暗記してただけだから、どこがテストに出そうだと思うか聞いてみても、全く見当もついていなかった。だからよくても85点くらいしか取れるようにならなかったんだね。「好きこそもの上手なれ」というのは本当なんだ。

スポーツでも同じだったよ。僕はラグビーというスポーツが大好きで、中学生のころから一生懸命やっていたけれど、ある試合中に、相手の次の動きが全て見えるようになった瞬間があったんだ。次はボールがこの選手にパスされて、その選手は右にステップを切ってくるな、とか、僕がボールを持ってこっちにフェイントをかければあの選手がつかれるから反対側に抜けるな、とか。

まるで神様が教えてくれているように、自分が走るべきコースが見えるようになったんだ。だから僕はラグビーを始めてたった半年で、関東の代表に選ばれるほどうまくなることができたんだよ。これは、僕の運動神経が良かったからじゃなくて、本当に好きで、そればっかりやっていたからなんだ。毎日ラグビーのことを考えて、自分がやりたい練習をずっとしてただけなんだよ。

この力は、大人になると、「自分の会社の業績は今後どうなるのか」とか「株価はどう動くようになるのか」とか「政府の政策はどうなっていくのか」とか「家賃は上がるのか下がるのか」とか「リストラはいつ、どのくらい行われるようになるのか」とか「景気は回復するのかしないのか、するとしたらいつなのか」みたいな、ちょっと難しいことを考えるのにすごく役に立つようになってくる。

こういう難しそうなおことが見えないと、大人というのはどんどん生きるのが辛くなってしまふ、悲しい生き物なんだよ。君もあと10年20年したら立派な大人になる。その時には、今はまだピンとこないと思うけど、こういうことを毎日考えて、悩むようになるんだ。そうしないと、今度は自分の家族とかがちゃんと生活できなくなっちゃうかもしれないから。

大人になって、自分の生きている世界がどう動いているのかが見えなければ、本当に大変だよ。でも、大丈夫。今から自分に正直に、全力で生きていれば、そんな心配はいらない。だって、世界がどう動くのかが、わかるようになってちやうんだから。

どうだい、すごいだろう？自分に正直に生きるだけで、毎日が楽しくて、失敗しても後悔しなくて、しかも次に何が起こるのが大体わかるようになってちやう。もしテストの問題が前もってわかっていたら、そりゃ100点ばっかり取れるよね。対戦相手がどう動くかわかっていたら、簡単に優勝できちやうよね。だから、自分に正直に生きている人は、夢も叶うんだよ。

じゃあ次に、夢を叶えるために必要なことのふたつ目のお話をするね。それはね、気になったこと、知りたいと思ったことは、たとえテストなんか一切関係なくても、どんどん調べる、ということ。君は、カエルの指は何本あるか知っているかな？ヘビはどうやって前に進んでいるのか知っているかな？カニはどうして横に歩くのかな？人間も鳥のような羽を持っていれば空を飛べるのかな？宇宙ってどのくらい広いのかな？空と海はどちらの方が青いのかな？どうして食べ物の好き嫌いがあるのかな？世界でも一流の成績を残せるイチローと、国内でプロにすらなれない人との違いはどこにあるのかな？

世界には、不思議なことがまだまだたくさんあるよね。その中には、君が全く興味を持ってないこともあるだろうし、興味を持てることもあると思う。僕は、興味を持てることを、とことん調べてほしいと思うんだ。興味を持ってないことは、とりあえずほっとこう。親や先生は無理やり勉強させようとするかもしれないけど、勉強するふりして、自分が本当に知りたいことを調べよう。

嫌なことはね、いくら調べても結局忘れちやうんだよ。嘘だと思ったら、お父さんやお母さんに、高校生の時に学校で勉強したことを聞いてみたらいいよ。ほとんど何も覚えてないんだから。毎日あんなに「勉強しなさい！」って言うてくるくせに、笑っちやうよね。

でも、お父さんもお母さんも、自分が好きで勉強したこととか、好きで練習したことは、今でも覚えているし、できるんだ。そういうことは、僕らは忘れないようにできているらしい。だから、どうせ忘れちやうようなことをわざわざ

“今”勉強する必要はないよ。こんなことを言うと学校の先生やお母さんに怒られそうだけど、でも、これは僕の本心。一生忘れない、君の夢を叶える力になってくれる、そんな「好きなこと」を一生懸命勉強しよう。そのかわり、誰よりも勉強するんだよ。自分が好きでやっているんだから、適当にやるんじゃないで、学校中で一番詳しくなるんだ。先生より詳しくなるようにやってみよう。そうすれば、君はまたぐっと夢に近づける。

最後、夢を叶えるために必要なことのみつつ目のお話をするね。それは「やりたいこと、やるべきと思ったことはどんどんやる」ということ。おや、なんかこの話は聞いた気がするぞ、と思ってきたかな？そう、実はこの「夢をかなえるために必要な3つのこと」というのは、全部関連しているんだ。だから、バラバラに覚える必要もなくて、楽チンだろう？

君は既に、自分に正直に生きて、何が好きか嫌いかわか、何に興味があるかわか、何がわかって、興味を持ったことについてはどんどん調べていくという生き方を学んだよね。でも、これだけじゃ最後の1ピースが足りないことに気づくかな？そう、「実際にやってみる」ということ。

僕はラグビーが好きで、強いチームのビデオをたくさん見て、ラグビーの本をたくさん読んで、体を強くするにはどういうトレーニングをしたらいいのか、どんなものを食べたらいいのかもいっぱい学んだけど、それだけじゃ、絶対に関東代表にはなれないよね。関東の代表に入るためには、実際にどこかのチームに入って、グラウンドに行き、怪我をしながら練習していくことが絶対に必要だ。だから、いくら自分に正直で、好きなことを誰よりも勉強していても、実際に行動を起こさなければ、何も変わらないんだということを、分かってほしいと思う。

サッカーがうまくなりたければ、今すぐお母さんに頼んで、近くのクラブチームを見学に行こう。カエルの指の本数が知りたければ、今すぐ近くの沼地に行き、カエルを探そう。エビとザリガニの違いが知りたければ、今すぐザリガニを釣って、魚屋さんに比べに行こう。面白い子が来たって言って、そのエビをお土産にもらえるかもしれない。

男の子でも女の子でも、やりたいことをやり続けるべきだと僕は思う。「そんなことをしていたら将来食べていけなくなっちゃうでしょ！子供のうちはやりた

くないことも我慢してやりなさい！」と親や先生は怒るかもしれないけど、実は、ほとんどの大人は気づいていないか、気づかないふりをしているけど、時代はもうとっくに変わっているんだよ。今は、学校でいい成績を取って、いい大学に入って、いい会社に就職する人が偉いんじゃない。これからどんどん会社は潰れて、若い君の就職先はなくなっていく。むしろ、大学などの学校だって潰れていく。大学に行く意味もなくなっていく。

君の親は、何か本当に困ったことがあったら国が守ってくれる時代を生きてきたけれど、君が大人になるころ、この日本という国にそんな力は残っていないんだ。君は、死ぬまで自分の身を自分で守らなければいけない。学校も、会社も、国も、誰も君を守ってはくれない。だから、君は一人でちゃんと生きていける力を身に着けなければならぬんだよ。そのためには、自分の夢を叶えちゃうのが、一番の近道なんだ。

自分の夢が叶えば、自分の好きなことをして、自分の楽しいことをして、自分でお金を稼いで、家や食べ物も用意して、みんなを笑顔にして、好きなところで生きていくことができる。今年日本、来年はアメリカ、その次はフランス・・・というように、住みたいところで生活することができるようになる。もちろんずっと日本にいてもいい。

「そんなのは夢物語なんだから、とにかく早く宿題やりなさい！」と、夢が叶わなかった大人たちが邪魔してくるかもしれないけれど、そしてそれはもしかしたらお父さんお母さんかもしれないけれど、それでも君は君のやりたいことをやり続けるべきだ。

君が大人になって、家族を持って、自分の人生を自分の力で生きていかななくてはならなくなったころ、残念ながら君のお父さんとお母さんはおそらくこの世にはいない。僕も、多分あと10分くらいかな？しか生きられないように、人間にも寿命があるからね。そして君は、お父さんもお母さんも死んじゃって、そこで本当に一人になるんだ。その時に「本物の生きていく力」が身につけていなければ、君だけじゃなく、将来の君の家族も、ちゃんと生活していくことができなくなってしまう。

僕が言っているのは、やりたいことをやった方がいいよとか、やってもいいんだよとか、そういう「甘い」ことではないよ。そうではなく、それは義務だと、僕は思うんだ。君は、君がなりたい大人になって、生きたい人生を生きて、そ

うすることで世界を楽しくするために生まれてきたのだということを、まずはしっかりと理解してほしいと思う。

僕のように、あと1時間後、いや、もうあと数分後かな、それくらいに死んじゃうとして、何にも後悔はない？

将来君にも家族ができて、家族のために一生懸命働いて、働きすぎとストレスである時ガンで余命1ヶ月と言われたらどうする？会社を辞めて、家族との時間を増やすんじゃないかな？でももしそうなら、なぜ初めから家族との時間をたくさんとれるような人生を選ばなかったのだろうか？なぜガンになるような人生を選んだのだろうか？あと1ヶ月で死ぬ君も悲しいかも知れないけど、残される家族の悲しみを君は理解できるかい？今日突然お父さんやお母さんが、あと1ヶ月で死ぬと言ってきたら、どれだけ悲しい？

そういうことを将来、君は君の家族にすることになるかもしれないんだ。そうなったらきっと君は悩み苦しむよね。過去、そんな悲しい思いをさせないよう、何とかしてあげれたんじゃないだろうか。ガンにもならず、家族の時間もたくさんあり、みんなで楽しく生きていけるような人生を選ぶことはできたんじゃないだろうか、って。でもガンで余命1ヶ月になってからじゃ全て遅いんだ。

過ぎ去った何かを取り返すのは人間には難しいけれど、事前に準備しておくことはできる。だから、今、この瞬間から、自分の人生は自分で生きる、自分の足で歩くんだと決めてほしい。

君の人生は、君にしか守ることができない。だから、君は自分の人生のことは、お父さんでもお母さんでもなく、学校の先生でもなく、親戚のおじさんおばさんでもなく、仲のいい友達でもなく、自分自身で決めるべきだ。自分のやりたいこと、勉強したいこと、そういう大切なことは人に任せないで、自分で決めるべきだ。自分に正直になって、本当に興味があることを勉強して、本当にやりたいことをとことんやってみるべきだ。大丈夫、その熱意が伝われば、きっとお父さんもお母さんも応援してくれる。最初は反対するかもしれないけど、君が本気だって分かたらきっと応援してくれる。だって、お父さんとお母さんは、普段はいろいろガミガミうるさいと思うけれど、本当はいつだって、君の味方なのだから。